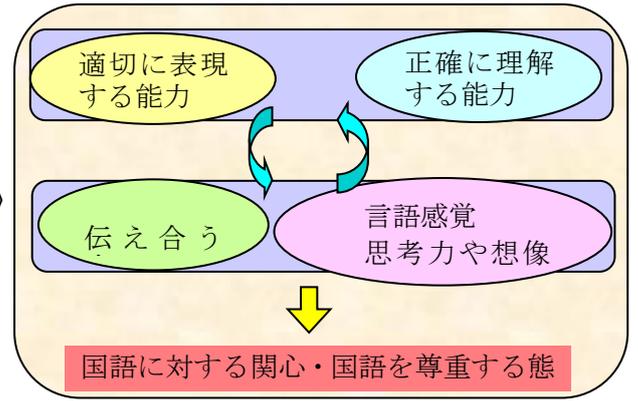


言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 日常生活に必要な国語について、その資質を理解し適切に使うことができるようにする。
- ② 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を培う。
- ③ 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を培い国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。



◎児童の状況

- 学習に意欲的に取り組み、各領域ともおおむね基礎・基本が定着しています。
- 文章の大体の意味を捉えたり、文章を読んで考えたりする力が身に付いてきています。
- 書く事柄を明らかにしたり、文章を組み立てたり、見直す力が身に付いてきています。

◎指導についての課題

- 自分の考えを話したり、相手の話を興味をもって聞いたりする話し合い活動を充実させること。
- 作文・ノート指導等で既習の漢字を書き直すよう指導し、漢字を日常で活用できるよう意識付けしていくこと。
- 接続語を正しく理解させ、話し言葉や文章の表現力を付ける指導を工夫すること。

◎授業革新推進に向けての具体的な方策

- 学習の練り上げができるようにペア学習やグループでの話し合いを充実させ、「わかった・できた」という思いを大切に「国語への関心・意欲・態度」を伸ばしていきます。
- 自分の考えをもち、互いに意見を出し合って考えを深め合えるような協働学習を充実させていきます。
- 東京ベーシック・ドリルやMIM等を利用し、各自のつまづきを見付け、既習漢字や熟語の読み書きなどについても、基礎力が定着するまで繰り返し学習させます。
- 伝統的な言語文化に触れる機会を増やします。

低学年

- ・音読を通して習熟する。
- ・身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使う。
- ・正しい字形・筆順で文字を書く。
- ・昔話や神話・伝承などの本を読む。
- ・自分の考えが相手に伝わるように話す。友達の話に興味をもって聞く。

中学年

- ・情景を表す言葉に着目して読む。
- ・辞典の使い方を習得する。
- ・読み替えの漢字も新出漢字と同様にしっかり学習する。
- ・理由や事例を挙げながら自分の考えを話す。
- ・話し手のよさを見付けながら聞く。

高学年

- ・教科書以外にも、美しい表現の作品を読む。
- ・辞書の活用を習慣化する。
- ・読み替えの漢字も新出漢字と同様にしっかり学習する。
- ・根拠や経験、相手の話を関係付けながら話す。
- ・話の要点や意図、意見の妥当性を考えながら聞く。

◎言語活動の充実

- 知らせたいことや紹介したいことをメモにしたり、文章に書いたりして発表する学習活動を取り入れます。
- 調べたことやまとめたことについて報告したり、討論したりできるように学習活動を深めていきます。
- 友達の考えを聞いて相手のよさを見付け、自分の考えを広めたり、深めたりするような話し合い活動を充実させていきます。

◎その他

- ・低学年、中学年では司書のいる図書室の時間を有効に活用し、読書活動を行います。
- ・毎週月・水の朝読書の時間を設定し、全学年読書活動を行います。
- ・基礎・基本の学力を定着させるために、朝学習や放課後のやよいタイム、保護者の協力を得ながら家庭学習の習慣化を図ります。